

化学療法科

Chemotherapy

部長	金 容 彦	H11	日本内科学会内科認定医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
医 長	本間千帆	H11	日本内科学会内科認定医 日本血液学会認定血液専門医 日本がん治療認定機構がん治療認定医

【対象】

2年間の初期研修を終了し、がん薬物療養専門医を目指す医師を対象とする。内科後期研修を終了していることが望ましい

【任期】

卒後研修終了後から7年間とする。8年次にがん薬物療法専門医試験(日本臨床腫瘍学会)を受験する。

【当科プログラムの特徴】

高度ながん診療が実地医療の現場で展開されるようになって久しいが、今後高齢化によるがん罹患者数の増大が予想され、腫瘍内科医(がん薬物療法専門医)に対するニーズが高まっている。その中で腫瘍内科医は毒性が強く、各科横断的ながん薬物療法に習熟すること、適切なタイミングで薬物療法以外の治療手段を用いるため適切な専門家へコンサルテーションできる conductor の役割が求められる。

当院の化学療法科では成人固形癌を対象に、主として外来で抗がん薬治療を行っている。各科の腫瘍治療のコンサルテーションも頻繁にあり、必要に応じて共同して入院による抗がん薬治療も手懸けている。臓器横断的で豊富な症例を診療しているが、主たる癌腫は乳がん、肺がん、胃がん、食道がん、悪性軟部肉腫などである。スタッフにがん薬物療法専門医、血液内科専門医がおり、標準治療を適切な支持療法とともにやっている。

各科の垣根が低く、ローテーションによる研修も希望により受けられる。また、外科手技は勿論、放射線治療専門医2名がリニアック2台を使って高度で質の高い放射線治療が行われており、集学的な腫瘍治療の研修が可能である。また、緩和ケア病床、専任の緩和ケア医が所属する緩和医療科もあり、治療の初期から身体・心理・社会・霊的側面から患者をケアできる体制が整っている。

【一般目標 General Instruction Objective : GIO】

適切ながん薬物療法を提供するために知識、技術、態度を身につける

【行動目標 Structural Behavior Objectives : SBOs】

1. 標準治療の意義と各癌腫における標準治療を理解する。(知識)
2. 標準治療の枠内で患者の希望・人生観に合わせた治療方針の提示が出来る。(態度・習慣)
3. 適切な時期に非薬物療法目的に専門科に紹介が出来る(知識 想起・解釈・問題解決)
4. 抗がん薬その他を安全に投与できる(知識 想起・解釈・問題解決)
5. がん薬物療法で生じた有害事象に適切に対応できる(知識 想起・解釈・問題解決)
6. 身体的苦痛の評価を適切に行うことができる。(知識 想起・解釈・問題解決)
7. 疼痛や他の症状に対する各種療法を適切に施行することができる。(技能)
8. 心理的苦痛の評価を適切に行うことができる(知識 想起・解釈・問題解決)
9. 患者、家族、医療チーム内で良好なコミュニケーションをとることができる(技能)
10. 医療現場における倫理的側面を認識し、適切な対応を心がける(知識 想起・解釈・問題解決)

【方略 Learning Strategies :LS】

方略 No.	SBO	方法	時期	人数	場所	時間	媒体	指導協力者
1	1, 7	講義	ローテーション開始時期	1	A8 Dr.Room	60分	資料	指導医
2	2, 9	ロールプレイ	ローテーション中	1	A8 Dr. room	60分		指導医、上級医
3	2, 3, 5, 7, 8, 10	カンファランス	木曜 15:30		緩和ケアルーム	60分		指導医、上級医、看護師
4	4, 5, 6, 7, 9	OJT	ローテーション中		病棟、外来、化学療法室			指導医

【評価 Evaluatiton :EV】

SBO	対象領域	目的	方法	測定者	時期
1	知識・問題解決	形成的評価	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
2	態度・習慣	形成的評価	観察記録	コメディカル指導医	ローテーション終了時
3	知識・問題解決	形成的評価	口頭試験	指導医	ローテーション終了時
4	知識・問題解決	形成的評価	口頭試験	指導医	ローテーション終了時

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土
				乳腺カンファ		
午前	外来	病棟	外来	病棟	病棟	
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	—
		呼吸器カンファ(外科)	Oncology 抄読会			